



オニシオガマ

朝日村 奥三河

25.64.9.30

オニシオガマ 富樫信平画 1985.9.30 新潟県朝日村産

オニシオガマ

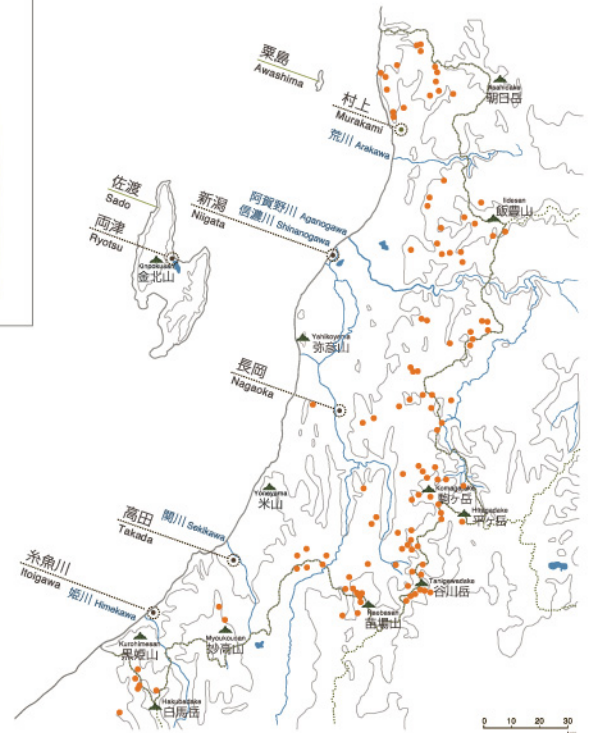
Pedicularis nipponica

〈ゴマノハグサ科〉

本州日本海側（秋田県～石川県）の多雪山地の湿ったところに分布し、本県北部ではやや低地に見られる。日本に自生するシオガマ属の中ではもっとも大型になる。

シオガマ属の植物の葉は、互生、対生、輪生などさまざまで、本種は対生である。地際につく大型の葉は羽状に全裂するが、茎につく葉は小型で羽裂せず、さらに上方では苞になる。

8～9月に、茎の先に花穂ができ、下方から順に咲いていく。花は淡紫紅色で大きく、美しい。
(林 寛子)



新潟県内の分布(新潟県植物分布図集 第三集1982より転載)

企画展示

シーボルトとアジサイ

6/4(水) - 7/21(月・祝)

医師として日本へ蘭学を広めるとともに、オランダ政府の命により日本の情報収集を行う役割を担って来日したシーボルトは、日本の植物の豊かさや園芸の発展を目の当たりました。帰国後、日本についての研究を『日本』、『日本動物誌』、『日本植物誌』などの書籍で西欧に伝えていますが、博物学という広い分野の中で植物に強い興味を持っていたため、『日本植物誌』には美しい図版と解説だけではなく、日本で見聴した内容も記述されています。

今回は、『日本植物誌』に数多く取り上げられたアジサイをはじめとした植物画と、それらの植物を展示することで、シーボルトの植物学における功績を紹介します。また、シーボルトにより紹介された植物を使い、西欧の庭園をイメージした装飾展示を行っています。

その他、シーボルトの妻の愛称「お滝さん」の名をつけたアジサイや貴重な世界のアジサイの野生種、美しい園芸品種の数々もあわせてご覧いただけます。



企画展示

食虫植物展

7/24(水) - 9/7(日)

食虫植物は、虫を捕らえるとても強い植物と思われがちですが、植物界では弱者といえます。多くの食虫植物が生えるのは痩せた土地で、他の植物が生育できないような環境でひっそりと生きています。そんな厳しい環境を生き抜くため捕虫する機能を発達させたのが食虫植物なのです。

このたびの展示では、食虫植物の本来の姿をご覧いただけるように、自然の状態に近づけた展示をおこないます。

また、食虫植物ではありませんが、虫を捕らえる植物が皆さんの周りにもあります。たとえば、セイヨウシャクナゲのネバネバした蕾は、小さな虫を絡めとります。このような植物の展示や食虫植物との違いなども解説します。

今回の展示の目玉は、大きなハエトリソエウの動く模型で、子供たちが食虫植物に捕まってしまった昆虫の感覚を体感することができます。どうぞハエトリソエウに食べられてみてください。





園内ウォッチング

苞(ほう)について

● 温室

苞とは、花または花序(花の集まり)を抱く特殊化した小型の葉のことです。色や形は様々ですが、葉というよりは花の一部のように見えます。しかし、花は花軸と呼ばれる茎の部分と、花葉と呼ばれるがく片、花弁、雄しべ、雌しべなどの器官からなり、苞はそれらの下につくため、花とは区別されます。ここでは幾つかの熱帯植物の苞とその役割を紹介します。

ブーゲンビレアやスパティフィラム、パキスタキスなどの苞は、花より大きく鮮やかな色彩を持ち、受粉を行う動物をより強く引き寄せる効果があります。花は比較的短期間でしぼんでしましますが、苞は長い期間鮮やかな色を保つため、苞の中にある複数の花が順番に咲いていく間も誘引の効果が持続します。

コンニャクやティフォノドルムなどに見られる苞は、動物を誘引する他にも、訪れた動物を一時的に中に閉じ込めることで、体により多く花粉を付着させたり、受粉させたりする効果があります。

また、夜開花するバナナの苞は、開花前の花を保護する他、夜になってから苞をめくり上げ花を露出することで、受粉を行うオオコウモリの仲間だけに多量の蜜を提供する仕組みを持っています。

(久原 泰雅)



ブーゲンビレア
(*Bougainvillea* cv.)
紫色の部分が苞



パキスタキス・ルテア
(*Pachystachys lutea*)
黄色の部分が苞



ティフォノドルム・リンドレイナム
(*Typhonodorum lindleyanum*)
白色の部分が苞



センナリバナナ
(*Musa chiloicarpa*)
紫色の部分が苞

チェリーセージ(*Salvia microphylla*)
甘いフルーツの香りのする園芸品種。ハーブ園には、赤白、白色の花色の品

カレープラント(*Helichrysum italicum*)
少しさわっただけでハーブ園にカレーの香りが漂う。花は3cm程度の黄色い花を咲かせる。

ペパーミント(*Mentha piperita*)
別名セイヨウハッカ。清涼感のある香りを持つ。似た香りを持つ日本に自生するハッカ(*M. arvensis* var. *piperascens*)とは別種。

ゲンショウコ(*Geranium thunbergii*)
センブリやドクダミとともに、古くから日本で利用されてきた民間薬のひとつ。7月下旬ころから2cmほどの小さな花を付ける。

ハーブ園



香る植物 ハーブ

● 園地

一般的にハーブは、ミントなどのように香りのある植物や薬草などを言いますが、広くは茶や料理、ポプリなど人の暮らしの役に立つ植物もハーブと呼ばれます。日本で昔から民間薬として利用されてきた植物もハーブとして扱われ、ドクダミ、センブリやゲンショウコなどたくさんの種類があります。

日差しが強く、気温が高くなる6月下旬からハーブ園では、いろいろな種類の花が咲き始めます。ハーブは、ほかの園芸植物に比べ、花は地味なものが多いですが香りを楽しむことができます。カレープラントは、その名のとおり、カレーの香りがする植物で、少し触れただけで、ハーブ園一面にカレーの香りが漂います。

目で花を觀賞するだけでなく、五感を使ってハーブ園を觀察してみたいかがでしょうか。

(橋本 永)

NEWS!

植物園の情報を タイムリーに発信

当園では4月にホームページをリニューアルしました。催し物や開花の情報をいち早くお伝えしています。臨時休館・開館日なども掲載していますので、ご来園前にぜひご確認下さい。また、エントランスゲートと觀賞温室入口の2ヵ所に「開花情報ボード」を設置し、見ごろの植物がどのエリアで觀賞できるのかが一目でわかるようになりました。情報をタイムリーに発信し、今まで以上にお楽しみいただける植物園を目指します。

<http://botanical.greenery-niigata.or.jp/>



ホームページ



開花情報ボード



海外植物園との合同調査



オキナグサ



園内で栽培しているミズアオイ

NEWS 1

「新潟の自然を守る」 新潟県立植物園における保全活動

昨年8月に環境省から発表された維管束植物のレッドリストには、1690種(亜種を含む)もの絶滅のおそれのある種があげられています。これは、日本全土に自生する約7,000種の植物の1/4が絶滅の危機に瀕しているという状況を示しています。一方、新潟県では自生する植物約3,000種のうち、350が絶滅危機種であり、すでにムジナモは絶滅(野生・栽培下共に絶滅)、デンジゾウおよびツルスゲは野生絶滅という危機的な状況下にあり、早急な保護が必要です。

「絶滅危惧」と聞くと高山植物や珍しい植物を思い浮かべるかも知れませんが、実際には、湿地や里山など人間の生活の影響が大きい場所の方がより深刻な状況となっています。このまま進めば、秋の七草であるキキョウは100年後には日本から姿を消してしてしまうと言われていましたし、県内ではオミナエシも絶滅危惧種とされています。これらの自生個体は、庭園で園芸的に栽培されるものとは遺伝的に異なるため、植物園での保全や自生地を復元するためには利用できませんので、本来の自生地を長期間に渡って安定した状態で存続させることが必要となります。

当園では平成18年度から日本植物園協会の植物種多様性拠点園(日本全体でネットワークをつくり、保全を進めていく事業)の北陸地域の拠点として全国を中心となって絶滅危惧植物の保全に取り組み、現在国内の絶滅危惧種のうち63種を収集、保全しています。一方、地域の方々と共にオキナグサ、ミズアオイ、クルマユリ、ヒメサユリ等の自生地保全を進め、絶滅危惧植物展やシンポジウムや保全技術講習会の開催、学校教育等も積極的に行ってきました。このような保全活動を進めてきた結果、



地元小学生による
オキナグサの植え戻し作業



表彰を受ける久原主任

当園の久原主任が行ってきた新潟県を中心とした絶滅危惧植物の保全の研究に対して、日本植物園協会から坂寄奨励賞が贈られました。また、今年度は当園のオキナグサの保全活動が、環境省の生息域外保全モデル事業(地域の協働参画モデル)として選定され、今後中越大震災で被害のあった地域での保全事業が行われる予定です。

さて、植物の保全に関しては、国際的な協力関係も必要となっています。現在進めているのがアメリカのカリフォルニア州のクオリヒル植物園との東アジアの植物の保全事業です。また、これまでもイギリスの王立キュー植物園、エジンバラ植物園やアメリカのポーリーヒル植物園やモリス樹木園等との合同調査や情報、種子や種苗の交換を行っています。

10年目を迎えた新潟県立植物園では、これからも県内を中心とした絶滅危惧植物の保全に取り組んでいきます。(倉重 祐二)

NEWS 2

美しくなったエントランス花壇

にいがた花絵プロジェクト実行委員会では、昨秋より秋葉区小合地区の小田家の畑でチューリップの栽培を行っています。小田家は大正年間に日本で初めてチューリップ球根の商業栽培を始めた小田喜平太を先祖に持つ園芸農家です。

5月3日の「春の植物園まつり」の際には、花絵プロジェクトの皆さんと一緒に、このチューリップゆかりの地でつくられたさまざまな色の花を、発泡スチロール製のチューリップ形ボードにさして花絵をつくり、池に浮かべました。

5月中旬には、新津商工会議所をはじめとするボランティアの皆さんから、ペチュニア、ヒマワリの植栽をしていただきました。エントランス周辺が華やかになり、来園者からも「きれいだな」との声が聞かれるなど、好評を博しています。ご協力いただいた皆さんありがとうございました。(橋本 永)



花絵完成



花絵づくり

※にいがた花絵プロジェクト実行委員会：球根育成のため、捨てられてしまうチューリップの花を集め、花絵をつくり、街を飾る活動をしている団体。新潟県の花、新潟市の花であるチューリップで「花絵」を作製することにより、街の美化、イメージアップ、県民、市民の豊かな心づくり、観光資源の創成や花き産業の活性化を目指している。



NEWS 3

日本ばたん協会総会開催

5月13日に当園の研修室において、日本ばたん協会(島根県 渡部孝会長 会員200名)の総会が開催され全国より多数の会員が出席されました。

14日には、江川一栄ボタンコレクション保存園(1,300株、180品種)と観賞温室の見学会が開催されました。この時期は例年ですとボタンの盛花期にあたりますが、本年は開花が1週間程度早く開花してしまいました。総会時には日本で作出された品種の花はほぼ終了していましたが、会員の皆さんは今も亡き江川理事を偲んで熱心にボタンを観賞していました。(田中 良明)

NEWS 4

新津美術館とのタイアップ企画

「宮沢賢治と吉田千秋—二人の植物学」

開催期間:5月27日(火)—6月15日(日)

この展示は、おとなり、新潟市新津美術館で開催された「絵で読む宮沢賢治展—賢治と絵本原画の世界」にあわせて行ったものです。賢治が設計した花壇や賢治作品の中で植物が登場するシーンに注目し、同じ時代に新潟市(旧新津市)に生まれ、やはり植物に深い関心を示していた吉田千秋(『琵琶湖周航の歌』の原曲、『ひつじぐさ』の訳詞・作者者)とともに紹介しました。(林 寛子)



宮沢賢治の設計スケッチをもとにつくった花壇「Tearful eye(涙ぐめる目)」



吉田千秋が好んだ植物や、植物に関する記事、絵画などの遺品(複製)を展示

村上市にて「富樫信平植物画展」開催

昨年度、当園と新津美術館にて共催し、好評をいただいた「富樫信平植物画展」を、富樫氏のふるさとである村上市(旧荒川町)で行います。

富樫氏の描いた植物の姿から、ふるさとの豊かな自然を知ることのできるこの機会に、ぜひ足をお運びください。

- 開催期間:7月19日(土)～8月3日(日)
- 場所:荒川地区公民館(村上市)



富樫氏の植物画展の様子

新潟の植物

コシジシモツケソウ

Filipendula purpurea var. *auriculata*

コシジシモツケソウは、山地の沢筋や林縁の水分の多いところに生育する高さ30~100cmの多年草です。6月から8月にかけて花穂の先にピンク色の小さな花をたくさん着けます。無数の長い雄しべが花から飛び出し、花穂全体がピンク色の綿のように見え、柔らかな印象を与えます。佐渡島、粟島を除く県内に分布しますが、平野部には少なく、さらに信濃川、阿賀野川の下流域の新潟平野には自生しません。

「コシジ」と名に付くように、本種は日本海要素の植物で、富山県及び長野県北部から山形県、新潟県に分布します。県内の分布を詳しく見ると、飯豊山を境に北西側のコシジシモツケソウ、南東側のオニシモツケソウに分けられ、両種はほとんど混在しないと報告されています。この飯豊連峰付近で、地質変動に関するなにかしらのドラマがあったのかなと想像すると楽しくなります。

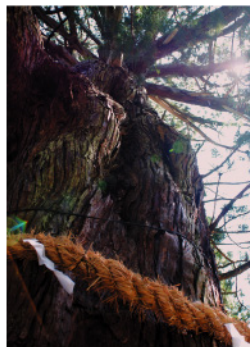
(橋本 永)



毎年付け替えられるしめ縄



虫川の大スギ



節くれだった幹

新潟の天然記念物

虫川の大スギ

上越市浦川原区虫川にある大スギは、樹齢1,000年を超えるるとされる全国有数の巨木で、昭和12年4月17日に国の天然記念物に指定されました。白山神社の境内にある御神木として古くから信仰の対象とされ、胴に巻かれた立派なしめ縄は毎年取り替えられるなど、現在でもその役割を担っていることが伺われます。

樹を仰ぎ見ると多数の枝が真上に伸び複数の木が育っているように見え、あたかも森をこの木が支えているようです。地上6mほどの高さにある大きな穴は今から150年前の安政年間に大雪で大枝が折れたためにできたもので、現在は鉄板で塞がれています。また、根元の土が固くなり呼吸を妨げるのを防ぐために木の周りに木道が設けられました。

保護事業は昭和46年から始められ、平成10年からは樹勢回復治療が保存会により行われ、作業には地元の学校などが参加し、地域を挙げての活動が続いています。(久原 泰雅)

- 樹齢:推定1,000年(1,200年以上)
- 樹高:30m
- 根元周囲長:12.8m
- 胸高周囲長(幹周り):10.5m

information 図書のご案内



「里山の植物」
2,000円

新津丘陵に植生する植物の大図鑑。約800種の豊富な里山の植物の魅力を再発見。



「ようこそ緑の夢王国
新潟県立植物園」
1,200円

新潟日報夕刊に連載された内容をまとめた一冊。植物に親しみきっかけに、植物園観賞のお供にぜひいかがですか。

※温室発券カウンターにて販売しています。

友の会通信

平成16年3月に発足した「新潟県立植物園 友の会」も今年で5年目を迎えました。会員数は199名（前年163名）と増加し、活動もより活発になっています。昨年度は、視察旅行1回、観察会3回、交流会（総会含）2回を行い、多くの方に参加いただきました。一方、会の活動がマンネリ化してきているとの指摘もあり、会の方向性を見直す時期に来ているとも言えます。

本年度は、会の方向性を定めると共に積極的に新たな活動を行っていかうと考えておりますので、会員の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

今年度の活動

●総会〈5月4日（日）13:15～13:45〉

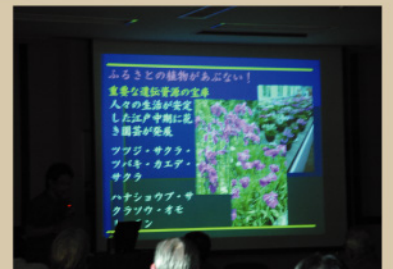
平成20年度は役員改選の年でしたが、会長をはじめ役員を継続してお願いすることとなりました。また、一昨年まで植物園長を務め、昨年退職した松山雄二さんにも役員としてご協力いただくこととなりました。総会前に行った役員会では、今後の活動についての提案の他、会の繰越金の使い道についての検討を行いました。会員にはこれらについてのアンケートをお送りしましたので、ご協力をお願いいたします。



総会の様子

●講演会〈5月4日（日）14:00～14:40〉

県立植物園倉重祐二副園長の「ふるさとの植物を守る植物園の活動」と題した講演会を行いました。現在、多くの生物が絶滅の危機に瀕していることが分かってきましたが、植物園はそれらの植物を保全する施設として世界的に期待されており、県立植物園でもその活動の一端を担っています。講演会では、植物園が担う役割や県立植物園の活動等についての紹介と協力をお願いがありました。また、この後バックヤードの紹介があり、県立植物園で行っている種の保存活動についての案内も行われました。



講演会の様子

●「植物園まつり」での出展

〈5月3日（土）～4日（日）10:00～16:00〉

「植物園まつり」に友の会でも野外テントを設置し、植物販売や会の紹介などを行いました。

石黒進さんにいつもまかせっきりになっていますが、会員も多く立ち寄り、植物の販売も好評でした。秋にも行いますので、多くの会員の参加をお願いする他、秋に販売可能な植物を提供いただける方は、準備をお願いしたいと思います。



「植物園の日」出展の様子

●今後の活動

●夏の植物観察会〈8月〉

湯沢町へ一泊の植物観察会を行っています。植物観察だけではなく、宿泊先の和田小屋では、おいしい食事や満天の星空も楽しめます。

新潟県立植物園
友の会

会員募集

友の会会員を常時募集しておりますので、植物園までお問い合わせください。

会員特典

- 観賞温室入館料無料
- 植物園日より、友の会ニュースレター、各種イベント案内の送付
- 研修旅行、企画旅行などイベントへの参加

年会費

- 個人会員 2,000円
- ファミリー会員 2,500円
(同居の家族は何人でもご利用できます)
- 賛助会員 一口 10,000円

※4月より翌年3月まで

花と緑の教室 会場:花と緑の情報センター
 (8月14日のガイドツアーは観賞温室第3室2階にお集まり下さい)
 ※参加希望の方は事前にお電話でご予約下さい。

- 7月6日(日) 10:00~11:30 ●寄せ植え「涼をよぶ植物」
 講師:片岡充(片岡笑幸園) 定員:20名 参加費:3,000円
- 8月9日(土) 10:00~11:30 ●「親子自然観察会」
 講師:石川小百合(森林インストラクター) 参加費:無料
- 8月14日(木) 19:00~19:30 ●ガイドツアー「夜咲く熱帯植物」
 講師:久原泰雅(県立植物園) 定員:15名
 参加費:無料(但し温室入館料が必要です)
- 8月17日(日) 10:00~11:30 ●「バラの育て方②夏の剪定」
 講師:佐藤七郎(新潟ばら会) 定員:30名 参加費:無料
- 8月31日(日) 13:30~15:00 ●「変化朝顔」
 講師:石川昇(新潟変化朝顔同好会) 定員:30名 参加費:無料

花と緑の教室特別企画●夏休み親子教室

会場:花と緑の情報センター 定員:各回小学生20名(保護者の同伴が必要)
 ※参加希望の方は事前にお電話でご予約下さい。

7月12日(土) 8:30から電話受付開始

- 7月27日(日) 10:00~11:30 ●「食虫植物を育ててみよう」
 講師:小坂幸生(新潟食虫植物愛好会) 参加費:500円
- 7月31日(木) 9:00~12:00 ●「植物標本を作ってみよう」
 講師:久原泰雅(県立植物園) 参加費:無料

7月19日(土) 8:30から電話受付開始

- 8月3日(日) 10:00~11:30 ●「食虫植物を育ててみよう」
 講師:田中良明(県立植物園・樹木医) 参加費:500円
- 8月7日(木) 10:00~11:30 ●「食虫植物を育ててみよう」
 講師:橋本永(県立植物園) 参加費:500円
- 8月10日(日) 9:00~12:00 ●「植物標本を作ってみよう」
 講師:橋本永(県立植物園) 参加費:無料

夏休み
夜間開園

8月の毎週土曜と14日(木)・15日(金)は20:30まで温室の開館時間を延長します(最終入館20:00)。夜の熱帯植物ドーム内では、オオオニバスやサガリバナなど夜に咲く花や香りを放つ花などを楽しむことができます。暑さが和らぐ時間帯にごゆっくりご観賞下さい。

朝顔鑑賞会

8月3日(日)は温室の開館時間を早めて8時30分に開館します。朝顔を解説付きで観賞いただけます。

●わくわく植物探検ツアー

案内員が熱帯植物ドームの植物をわかりやすくご説明します。解説付きの見学は満足度倍増!
 ①10:40~ ②14:40~ (土・日・祝日は13:40からも実施)
 ※当日温室発券カウンターにて受付(定員制)

また、ご自分のペースで解説付きの見学をお楽しみになりたい方には、携帯音楽プレーヤーiPodを使った展示解説「seedPod(シードポッド)」もご用意しています。温室の発券カウンターでプレーヤーを貸し出ししていますので、ぜひ一度お試しください。(無料・要身分証明)

●観賞温室利用案内

開館/9:30~16:30(入館締切16:00)
 入館料/大人600円、シルバー(65歳以上)500円、小中学生100円
 ※土日祝日は小中学生の入館料無料です。

●観賞温室開館カレンダー(●休館日)

7	8	9
日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土
・ ・ 1 2 3 4 5	・ ・ ・ ・ 1 2	・ ① 2 3 4 5 6
6 ⑦ 8 9 10 11 12	3 4 5 6 7 8 9	7 ⑧ ⑨ 10 11 12 13
13 14 15 16 17 18 19	10 ⑪ 12 13 14 15 16	14 15 ⑫ 17 18 19 20
20 21 ⑬ ⑭ 24 25 26	17 ⑮ 19 20 21 22 23	21 22 23 24 25 26 27
27 ⑯ 29 30 31 ・ ・	24 ⑰ 25 26 27 28 29 30	28 ⑱ 30 ・ ・ ・ ・

●交通アクセス ※駐車場無料(350台収容)

高速道路/磐越自動車道新潟ICから国道403号三条・加茂方面へ約15分
 一般道路/(新潟方面から)国道49号茅野山ICから国道403号経由約20分
 JR/信越線古津駅から徒歩約20分
 バス/区バス:新潟駅東口から「うららこすど」行き「美術館・植物園前」下車徒歩約1分
 新潟交通:新潟駅東口から「矢代田経由白根・潟東営業所」行き「新潟美術館入口」下車徒歩約10分

花のカルチャープラザ体験教室

会場:花と緑の情報センター 10:00~15:00
 ※当日随時受付 ※受講料は変更となる場合があります

- 7月20日(日)・21日(月・祝) ●「チビッ子体験教室 竹で作る楽器」
 受講料:500円~ 藤春工房
- 7月26日(土)・27日(日) ●「自然素材をつかった小物づくり」
 受講料:2,000円~ あけびのつる細工 つるっ娘
- 8月2日(土)・3日(日) ●「ハーブで作ろう!楽しもう!」
 受講料:500円~1,000円 ジャパン・ハーブ・ソサエティ新潟支部
- 8月7日(木)~14日(木) ●「夏休み 木とのふれあい工作教室」
 受講料:400円~3,000円 お山の森の木の学校
- 8月9日(土)・10日(日)・14日(木)・15日(金) ●「花とのふれあい押し花教室」
 受講料:500円~1,500円 花工房 萌
- 8月16日(土)・17日(日) ●「かんたんクラフト教室」
 受講料:500円 工房竜
- 8月23日(土)・24日(日) ●「夏休み アメリカンフラワー教室」
 受講料:400円~800円 アメリカンフラワー
- 8月23日(土)・24日(日) ●「チビッ子体験教室 竹で作るトンボ」
 受講料:300円~500円 藤春工房
- 9月6日(土)・7日(日) ●「ちぎり絵・万華鏡づくり」
 受講料:ちぎり絵1,000円~1,500円・万華鏡650円~ 中村澄子と紙ちぎり絵教室

展示

観賞温室第2室 企画展示

- 7月21日(月・祝)まで 「シーボルトとアジサイ」
- 7月24日(木)~9月7日(日) 「食虫植物展」
- 9月10日(水)~11月9日(日) 「源氏物語と植物」

観賞温室第3室 住宅内展示

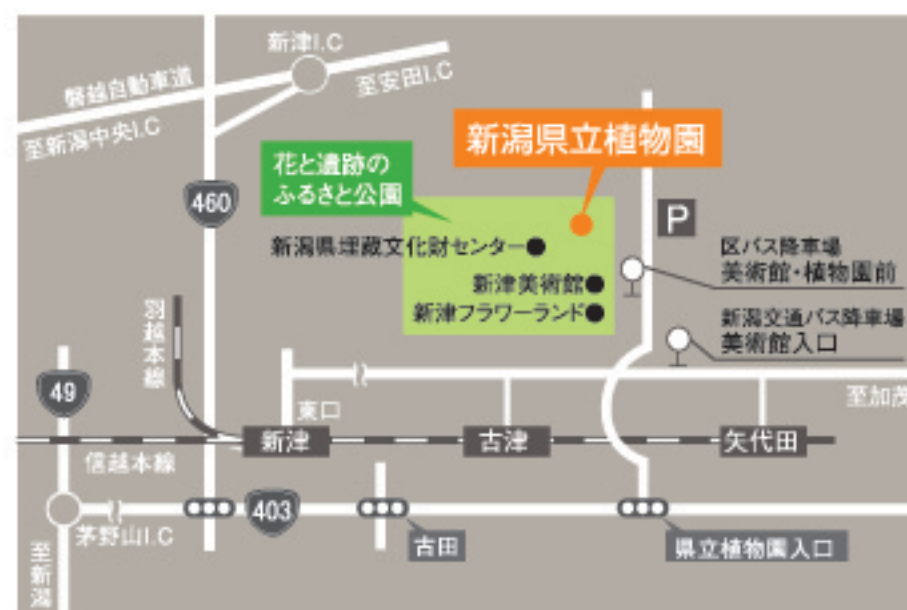
- 7月8日(火)~7月27日(日) 「花をテーマにした折紙アート」
 出展:日本折紙協会新潟支部「はまなす」
- 7月29日(火)~8月10日(日) 「木の昆虫、人形の創作展」
 出展:お山の森の木の学校
- 8月26日(火)~9月7日(日) 「中村澄子ちぎり絵展」
 出展:中村澄子ちぎり絵教室
- 9月10日(水)~9月28日(日) 「押し花の仲間達」
 出展:森のアトリエ
- 9月30日(火)~10月19日(日) 「切手に見る有用樹木」
 出展:佐藤武(財)日本郵趣協会新潟県央支部

特別展示

- 7月13日(日)まで 「帰化植物展」
- 7月15日(火)~8月10日(日) 「絶滅危惧植物展」
- 7月29日(火)~8月10日(日) 「大輪朝顔展」
- 8月12日(火)~8月24日(日) 「熱帯果樹展」
- 8月26日(火)~8月31日(日) 「変化朝顔展」
- 9月30日(火)~11月3日(日) 「大文字草展」

●花と緑の相談コーナー

専門相談員の片山芳宣先生がわかりやすくお答えします。
 ・相談受付日:毎週水曜、日曜
 ・ご相談は直接相談コーナー(観賞温室内無料エリア)へ。
 ・電話でも受け付けています。専用電話0250-24-6437



新潟県立植物園

〒956-0845 新潟市秋葉区金津186番地
 TEL.0250-24-6465 FAX.0250-24-6410
 Eメール botanical@greenery-niigata.or.jp
 ホームページ http://botanical.greenery-niigata.or.jp/
 指定管理者 財団法人 新潟県都市緑花センター

